

## 渡部修さんを悼む

産業技術総合研究所・システム脳科学研究グループ 林 隆介

渡部修さん（室蘭工業大学 准教授）が、2015年6月22日、42歳の若さでご逝去されました。同年1月の視覚学会冬季大会でお会いした際には、いつもと変わらぬ落ち着いた佇まいで、研究のお話をされていました。それだけに、突然の悲報に接した衝撃はとてもの大きく、今でも信じられない思いです。

渡部さんは、「ネオコグニトロン」で有名な大阪大学の福島邦彦先生に師事し、両眼立体視の神経回路モデルの研究で博士号の学位を取得されました。その後も、独自の計算論的アプローチに基づく視覚研究を行い、数々の業績を挙げられてきました。視覚学会をはじめ、電子情報通信学会、日本心理学会、日本神経回路学会など多くの学会で、幅広く活躍され、モデル研究と心理物理研究の両アプローチから視覚情報処理のメカニズム解明を目指す中堅研究者として存在感を発揮されていました。

私と渡部さんとのつながりは、両眼立体視の研究をしていた博士課程在学中に遡ります。渡部さんの神経回路モデルと出会い、ご助言をいただいたことが懐かしく思い出されます。その後も、学会でお会いするたびに、独自の解析手法やモデルについて、丁寧に解説してくださいました。これまで同世代の研究者として刺激を受けていただけに、大きな悲しみと喪失感に襲われています。

また、こんなにも早く渡部さんを失ってしまったことは、わが国の計算論研究にとっても大きな損失だと考えます。道半ばで急逝された故人の足跡を一つでも多く、記録として後世に残したいと考え、本追悼文とともに掲載された解説論文に、渡部さんが私どもとすすめてきた研究をご紹介します。

この先、さらなるご活躍が期待されていただけに、かえすがえす残念でなりません。この場を借りて、改めて哀悼の意を表したいと思います。

